令和８年度　第３回　麁玉小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和８年１０月１７日（土）　13 時 30 分から 15 時 30 分まで
２　開催場所　　麁玉小学校　会議室
３　出席委員　　太田富次郎、鈴木一誠、伊藤誠一、山関ひで子、吉田さやか
　　郁山明日香（学校支援コーディネーター）
４　欠席委員　　鈴木隆広
５　オブザーバー　椛　通安（麁玉協働センター職員）、池野谷富子（R７PTA 会長）
　　森田智佳（主任児童委員）
６　学校支援コーディネーター　町田和代
７　学　　校　　竹田良子（校長）、吉川利行（教頭）、髙林圭吾（教務主任・CS 担当）、
　　村瀬美恵子（CS ディレクター）、大桑　将史、星野亮、丸　大我、
　　小林奈々佳、原田　満、鈴木果穂、奥出千也、平松進哉、中村耕介、
　　森島大画、松原岳司、鈴木やよい、鈴木八重子、中村寿美英、
８　傍 聴 者　　なし
９　会議録作成者　村瀬美恵子（CS ディレクター）
10　協議事項
　（１）第１回学校評価について
　（２）チェンジステージの取り組みについて
　（３）令和９年度の教育課程に向けて

11　会議記録
　本会は、委員７名のうち６名の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。
　太田会長からは、子供一人一人の成長が嬉しく先生の力に感謝する。今後も学校と地域をつなぐ役割を私達委員が務める。竹田校長からは、6 年生の親子の歌声に、素敵、ほっこり、温かさを感じた。タブレットの目的の明確化、ほめほめカードに褒める言葉が多く、子供の成長につなげたい、との挨拶があった。
　議長は、名簿の順番で、太田会長が山関委員を指名した。
　議長の指示により、太田会長が前回会議録を読み上げ、委員全員で確認した。
（１）第１回学校評価についての報告
〇議長の指示により、髙林教務から別紙資料とプロジェクターを使い説明があった。
・児童の学校生活への満足度は高く、特に「将来の夢」や「こうなりたい」という思いを持つ子が多いことは、良好と捉える。挨拶や姿勢、生活リズムに課題をもつ。
・保護者の肯定的な回答の多くは、家庭の温かな受け止めと捉える。自分からの挨拶、ふわふわ言葉の使用、基本的な学習のルール、等を家庭はもう一歩と感じている。
〇委員より、以下の御意見をいただいた。
・タブレットを家庭に持ち帰ることは、子供にとって、家庭においても学校から管理されているというプレッシャーに感じてしまうのではないか。　（伊藤委員）
・タブレットを持ち帰る目的は、家庭での学習の充実を図るため。管理されているというプレッシャーを感じているように見られる子供は今の所見られない。また、タブレットの重量軽減に向けて通学かばんの中身のスリム化する等、配慮を行っている。
（髙林教務）
・不審者情報に対応し歩行パトロールをした。その後の増加傾向を心配。（鈴木一委員）
・その都度、さくら連絡網の発信により家庭と子供に情報提供をしている。（髙林教務）
・家庭でのタブレット使用管理は大切と感じている。　（吉田委員）

・タブレット使用で本読みや書き取りが減少することが予想される。アプリを有効に活用して、バランス良く学習に取り組ませていきたい。（山関委員）
・タブレット活用の充実は、将来に向けた大切なスキルを獲得できると考えている。（北野谷委員）

協議の結果、全員意義なく報告について確認した。

（２）チェンジステージの取り組みについて

報告を各実践部長が行った。

〇やさしい子部

・10 月より学校だよりで「麁っ子のきらきら発見！ほめほめカード」を発信。
・「オアシス運動」を掲示し、地域にも挨拶の意識の向上を願う。
・「あらたまきらきらコーナー」設置、「ふわふわ言葉の木」の増加、毎日きらきらシャワータイム実践等を通して子供たちの良さを認める場を増やす。

〇たくましい子部

・生活リズムの大切さを、情緒モラル講座・親子朝食作りチャレンジ等の実践を通して伝えていく。
・子供たちの考えたイベント「あらたまジム」「逃走中」を行い、子供たちの体力づくりへの意識を高める。

〇かしこい子部

・黙想や姿勢を掲示物で示す。
・「自分から学びたい」と「授業を楽しむ」を受け止めた授業を工夫していく。
・楽しく向き合い、やる気を誘う授業の展開を進めるため、研究授業の充実を図っていく。

（３）令和９年度の教育課程に向けて

〇グループ協議

「やさしい子部」「かしこい子部」「たくましい子部」の３つのグループに教員と委員が入り、「ＳＷＯＴによる環境分析」で、意見交換を行った。

〇全体発表　各部の代表がグループで協議したことを発表した。

「やさしい子部」

・挨拶は中学生の良い姿を真似させたい。地域は学校に対する意識が高い。
・縦割り活動で名前を呼び合う関係を育てる。恵まれた自然を学習に活かす。
・オアシス運動を広めていく。

「たくましい子部」

・学習の中で地域の豊かな自然と体験が活かされている。
・地域の経験豊富な大人の活躍を学校教育に積極的に取り入れる。
・安全・防災・危機管理は大切。登下校時ボランティアと通学班の旗振りについて今後も地域の方の協力をいただきたい。

「かしこい子部」

・様々な事に興味を示す子供が多いが、向上心がやや低い。
・基礎・基本が身に付いていないと、途中でつまずき出来なくなる。
・タブレットの活用の仕方、良さの活かし方を工夫する。
・地域の強み（祖父母がいる安心感）をこれからも活かしていく。
・地域が広く遠いので気軽に友達と遊ぶことができない子がいる。

〇　御意見

委員より、以下の御意見をいただいた。

・要望を聞いて地域は学校に協力をしたい。子供たちの言葉の悪さが気になる時がある。（太田会長）
・地域と学校との距離が近いのが良い。これからも積極的にボランティアの協力をしていきたい。（郁山委員）
・どの観点で何を言えばよいのか。浜松市は広域で地域性があり迷う。（伊藤委員）
・向上心をもち地域と家庭が努力することが大切であると考える。
安全面で【ゾーン３０】の推進を行っていきたい。（鈴木委員）
・学校の教育実践と教員の頑張りの姿を広めてほしい。（吉田委員）
・学校は風通しと見通しが良く、子供をよく見てくれている。この学校の姿が、地域に伝わると良い。（山関委員）
・子供各々の実態の違いを受け止めて対応している姿に頭が下がる。（森田オブザ）
・本会は学校の教育を保護者に知らせる、伝える任務があると考える。
（北野谷オブザ）
・地域の温かさ、地域に根付いている豊かな資源を子供に提供したい。（椛オブザ）
協議の結果、全員意義なくこれを確認した。

12　その他

吉田委員から市Ｐ連脱退について、教頭から本年度の学校運営協議会自己評価の説明があった。

13　連絡事項

次回の学校運営協議会は２月１６日（火）を予定し、議長は名簿順で鈴木隆広委員が依頼された。